

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善傾向にある。

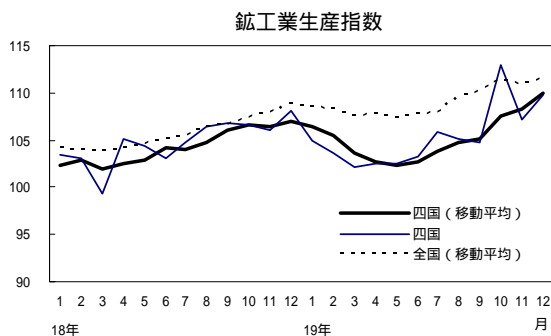
前回調査からの主要変更点

	前回(平成19年11月)	今回(平成20年2月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

パルプ・紙は、チラシなどの塗工紙や雑誌などの非塗工紙が好調であったため、増加している。食料品・たばこは、お歳暮需要のため肉製品に動きがみられたものの、清涼飲料水工場定期修理があったため、減少している。電気機械は、パソコンや携帯電話などに使う蓄電池が好調であったため、増加している。化学は、医薬品は引き続き好調であったものの、工場の定期修理があったため、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、造船・鉄鋼業向けの固定式クレーンが、引き続き海外を中心に好調であったことから、増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

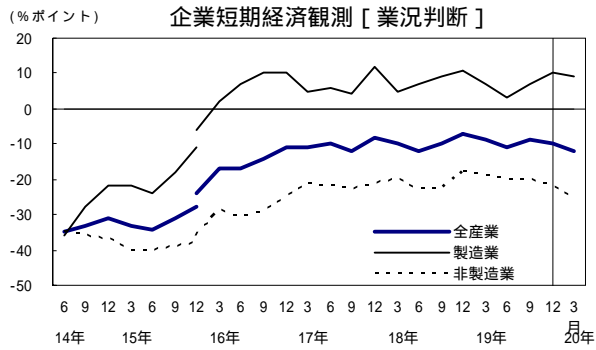
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
パルプ・紙	13.3	4.5	3.6	4.5	4.9
食料品・たばこ	13.3	1.0	4.4	5.7	0.5
電気機械	12.8	0.8	20.8	23.0	131.9
化学	12.7	6.0	1.0	3.5	1.0
一般機械	11.3	2.0	1.7	2.0	6.5
鉱工業	100.0	2.4	4.6	5.4	4.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

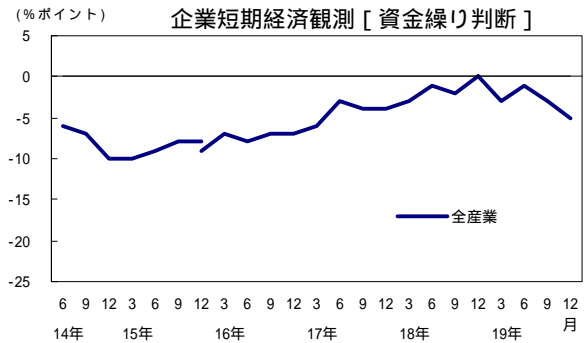
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

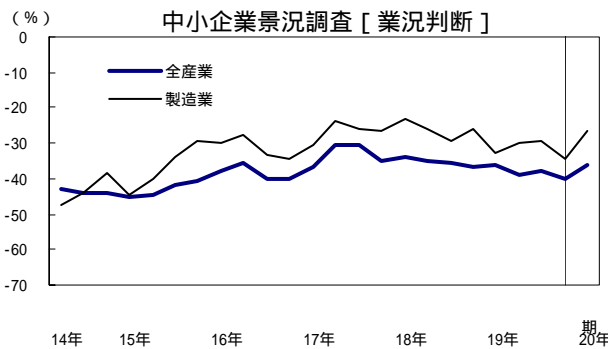
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

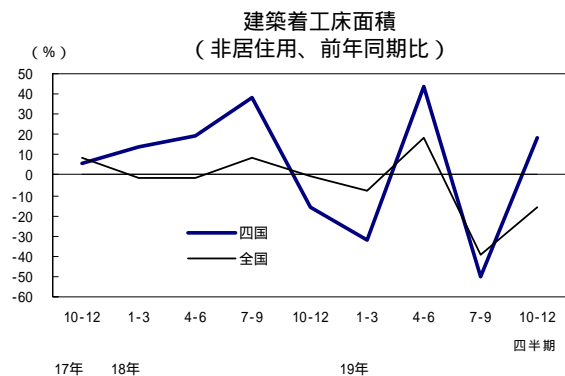
「小売価格の修正交渉が続いているが、なかなか理解が得られず、採算が取れない(パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	8.7	11.7 [10.5]
製造業	15.7	24.5 [25.2]
非製造業	2.5	1.4 [4.6]

(備考)[]は前回(9月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

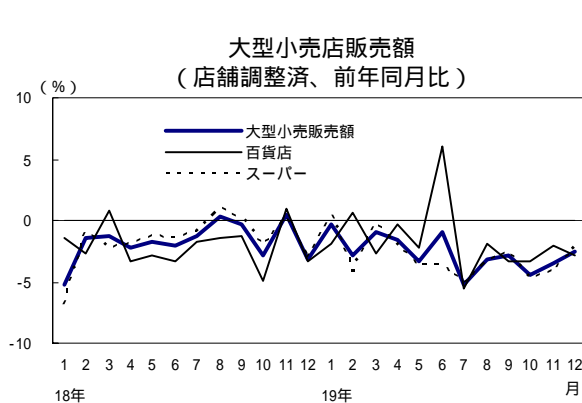
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、前年に比べ日曜日が1日少なく客足が伸びなかったことに加え、上旬の気温が高めに推移し、ブーツやコートなどの秋冬物商材が低調であったため、前年を下回った。11月は、高額商品である宝石、時計などに動きがあったものの、冬物衣料が低迷し、海外ブランド品も振るわなかったことから、前年を下回った。12月は、引き続き海外ブランド品やブーツなどが低調であったことや、歳暮ギフトも減少傾向で振るわなかったことにより、6か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の1月の売上高は前年同月比で2.9%減となっている。

スーパーは、期を通じて気温が高めに推移し冬物衣料の動きが鈍かったことに加え、前年好調だったゲーム機・ソフトの反動減から、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

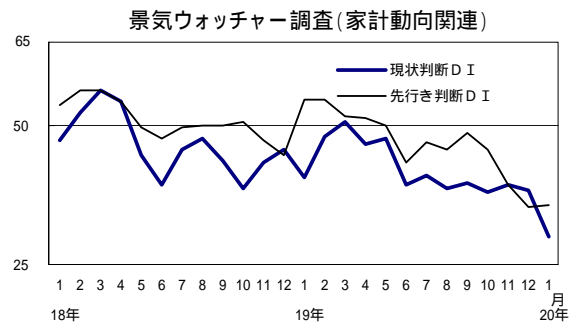
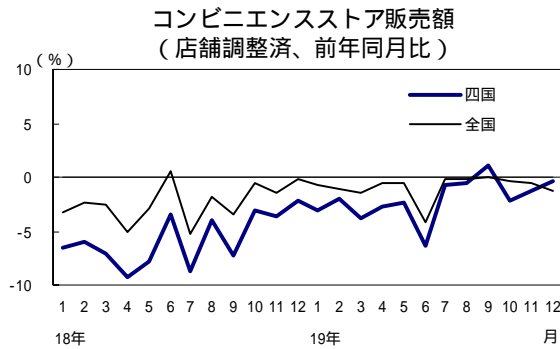
「マグロの刺身等は、少量パック・低価格のものが主流で、大型パック及び中トロ等の単価の高い商品は売れなくなっている(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.3	2.0	3.8	4.3
百貨店	1.5	1.1	3.9	2.7
スーパー	1.1	3.1	3.7	4.9
コンビニ	3.0	3.8	0.1	1.2
景気ウォッチャー	46.5	44.6	39.7	38.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

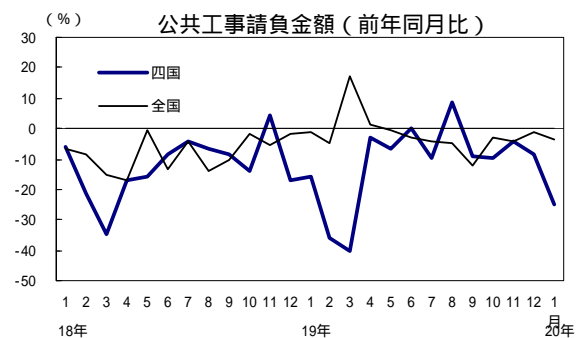
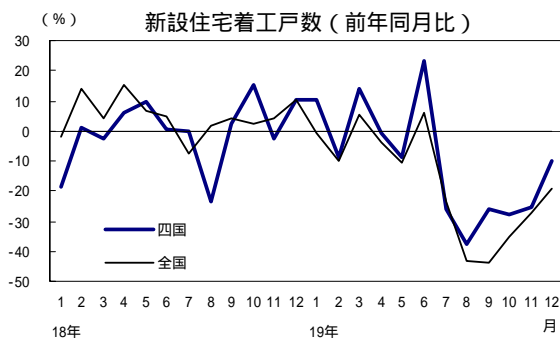
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

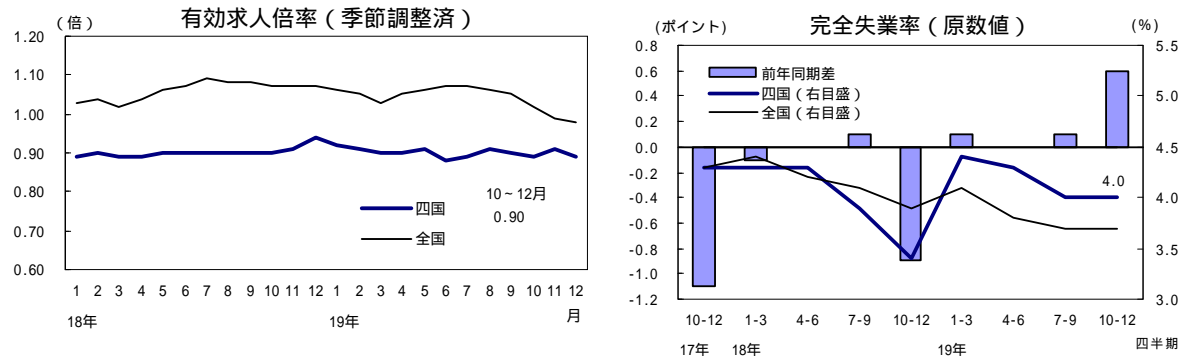


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

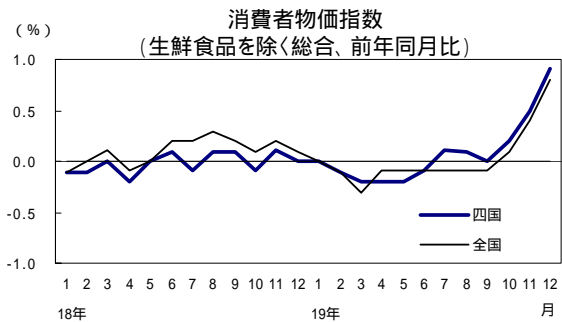
「特に事務系において正社員の割合を減らし、派遣社員で対応しようとする企業が増えてきている(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額が減少しているものの、件数はおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	79	106	103	92	31
(前年比)	5.3	19.1	7.2	1.1	24.0
負債総額	1,186	453	306	197	79
(前年比)	437.3	76.7	30.8	51.3	79.2



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・四国の企業への就職・転職希望者は減少しているため、地元企業が求人にかかる広告予算が削減されている(求人情報誌製作会社)

<先行き>

・団体旅行の見積依頼も入ってきており旅行需要は回復してくる。4月以降のパンフレットができたがヨーロッパなどかなり値上がりしているため、海外旅行は少し減少する(旅行代理店)

